

地域の「やってみたい」を応援する情報誌

みんな



「ともに」生きるまちへ

このまちは暮らしやすいですか？互いを思い、支え合う気持ちに満ちていますか？
今号では、県内唯一の盲学校や点字図書館がある四街道で視覚に障害がある皆さんを
取材し、まちのあり方について考えてみました。



ガイドヘルプを利用して買い物を楽しむ金子さん

インクルーシブな まちになろう

つながり合い、溶け込むまちへ

四街道市民で身体障害者手帳を持つ視覚障害者は230人とされます（平成30年度末現在、千葉県ホームページ くらし・福祉・健康 「市町村ごとの障害者手帳所持者数」より）。弱視や視野狭窄、色覚異常など視覚にさまざまな障害のある人は、さらにたくさんいらっしゃいます。

視覚障害のある人に聞くと、多くの皆さんがこのまちは住みやすいと言います。市民や駅員からの声掛けは多く、点字ブロックはもちろん、出入り口に買物の介助スタッフ呼び出しボタンを備えた量販店や、点字メニューを用意する飲食店もあります。障害者の支援をする市民団体も数多く「ガイドヘルプグループ」や「拡大写本の会」などが活発に活動しています。

これまで障害者と社会のあり方については、さまざまな表現がなされてきました。

視覚障害者でもあり市の審議会で委員を経験されるなど地域と積極的に関わる伊佐勉さんは、2006年

国連総会で「障害者権利条約」が採択された際（日本では2014年批准）「インクルーシブ（包容する、包括的な）」という言葉が初めて聞いて思わず膝を打ったそうです。「誰もが支えあい、自分の居場所と役割を持ち、つながり合う社会。これからは皆が混ざり合い、溶け込んでいく社会になることが必要ではないか」と思います

「みんなと一緒だよ」

市内にある視覚障害者のための支援・情報提供施設「視覚障害者総合支援センターちば」を訪ねました。職員の小川龍海さんは、小学生のボランティア体験で、視覚障害者の生活について「目が不自由でも工夫すれば楽しいことはたくさんあります。みんなと一緒だよ。だから障害者のことをもっと知ってほしいと思います」と呼びかけます。また「杖を使う高齢者が増えた街中では、使う者同士がぶつからぬよう私たちも気を付けて歩いています」とも話してくれました。



これからの社会のあり方を語る伊佐さん

しかし「残念ながら社会に出る視覚障害者はほんのひとりにぎりです」と話すのは川崎弘所長。障害者には家族も含め「私たちのことを知ってほしい」一方で「障害のあることを知られたくない」の葛藤があると指摘します。

「常々障害者同士が声を掛け合い、支え合うことが大切だと思っっています」

困難を持ちながらもその人ができる方法で周囲を思いやる。「ともに」生きるために、障害のある人はそれに気づき、実践していることを実感しました。

障害のある人は かわいそうな人ではない

連絡先

視覚障害者総合支援センターちば

住所：四街道市四街道1-9-3

電話：043-424-2501



視覚障害者総合支援センターちばに勤務する石川龍海さん（30歳）は、先天性全盲です。一人暮らしは12年以上、外出も家事も自立しています。触読時計（触ってわかる時計）やスマートフォン、パソコンを使いこなし、趣味はゲーム、白杖を携えた電車の旅。とてもアクティブです。「今の私があるのは両親のおかげです」。お父さんの口癖は「やってごらん」。火や包丁を使う料理も野球などのスポーツも、見えなくて危ないからやらせないのではなく経験することからさせてくれました。お母さんも日常生活の中で「見えていてもミスはするよ」と伝えてくれたそうです。

一方、金子進さん（75歳）は、網膜の病気で中学校から盲学校に通い、数年前に失明しました。県立千葉盲学校では、教師として生徒やその家族に寄り添い、悩みに耳を傾けてきました。定年後は、市の障害者自立支援協議会や障害者同士の交流などに尽力しています。明るく前向きな金子さんについて周囲の人も生き方に学ぶところが多いと話します。

思い合い、認め合い、 支え合うまちになろう

取材の最後に、石川さんに5年後、10年後に望むまちの姿について尋ねました。「いつも『自分だけが違う』と考えている障害者に、実はとても広い可能性があることを伝えていきたいと思います。そして、市民がお互いに心地よく自分らしく過ごすための工夫や提案はさらに必要になるでしょう」

生き方や価値観が多様化する現代。互いに思い合い、認め合い、支え合うことができれば誰でもその人らしく暮らすことが可能ではないでしょうか。障害のある方への取材を通して、今まで支えられているだけと考えられがちだった皆さんが、実は共生への高い意識や強い思いを持っていることを知りました。

これからは私たちの番です。困難を抱えた人の「ために」ではなく、みんなで「ともに」生きることを意識したまちづくりを始めてみませんか。

金子さんは小学校の福祉授業で障害当事者として話をします。強調するのは「障害のある人は、かわいそうな人ではありません。ちよつとだけ生活が不便なだけ」ということ。「困ったときは私たちからも積極的なアピールが必要です。例えば、白杖を真上に挙げているのは助けてくださいという合図。そんな光景を見かけたら、ぜひお手伝いしましょうかと声掛けしてほしいです。そして、障害がある人ももっともつと外に出



てほしいと思います」。静かで優しい語りの中に社会や私たちへの強い願いが伝わってきました。

ピックアップ

ソシオ・マネジメント勉強会2019
公開講座
「ミーティングファシリテーション」



土肥潤也さんのブログ
「コミュニティの実験室」
<https://dohijun.com/>

9月25日、公開講座を開催、講師にコミュニティファシリテーターの土肥潤也さんをお迎えして、市内外から20人が参加しました。

会議や打ち合わせなどでよく聞かれる「意見がまったく出ない」「参加者の主体性が低い」「会議で決まらない!」といった問題を解決するチカラをつけるための講座です。場を支え、参加者が当事者意識を持って答えを導く手伝いをするファシリテーターの基礎的な考え方やスキルを学びました。

最初のゲームで参加者が意見を出しやすい雰囲気作り。グループワークでは「良い話し合い」と「悪い話し合い」について、思い当たる例を出し合いました。「その場にいる意味が分からない」と意見を出せ

ない」「意見を否定されないと安心感がある」「感情的になると話し合いにならない」など、どうすれば話しやすい場になるかが浮かび上がりました。机のレイアウトは、口の字形より多角形だと互いの顔が見えるのでそれだけで意見の出しやすさが違う。感情的な場面ではその人の背景からくる意見と、どうしたいのかという事実を切り分けるなど、具体的な方法も話されました。

土肥さんの「考えの違う人同士がみんな決めてのが会議。参加者が主体的に参加し、対話しながら意見をまとめて分かち合うこと（合意形成）が必要です」という話に参加者は納得し、今後の会議に生かせるヒントを持ち帰りました。

お知らせ

みんなで地域づくりセンターでは、これから地域で何かしたい人、すでに活動している人をサポートするプログラムや講座を実施しています。

お問い合わせは、
みんなで地域づくりセンターへ
お電話ください。

Tel. : 043-304-7065

「こどもみらいフェア」を開催します

センターでは、地域の子どもを取り巻く環境について考え行動していくために、昨年、市民の皆さんと一緒に「子どもサポートプロジェクト」を立ち上げました。12月には具体的アクションとして、学びの場と居場所を提案する「こどもみらいフェア」を開催します（今年度「ちば県民活動PR月間2019賛同行事」として登録）。

①みんなの学食「りんごとはちみつ」

12月3日（火）16：00～20：30 ※以降、毎月第1火曜日開催

②「子ども見守りサポーター養成講座」

12月8日（日）13：30～15：30

③中高生のオープンスペース「RAKUまある」

12月17日（火）16：00～20：00 ※以降、毎月第3火曜日開催

みんなで地域づくりセンターは、文化センターの耐震補強工事のため来年3月末（予定）まで文化センター休憩室（旧レストラン）に移転しています。詳細については、ホームページにてご案内いたします。

編集後記

「福祉」というものを意識したのは中学生の時でした。そして介護保険が始まる2000年に本格的に関わるようになりました。あれからもうすぐ20年。制度はさまざまに変化しましたが、「暮らし」や「人と人との関わり」はいつの時代も変わりません。これから「みんなで」の紙面を通じて「福祉」を普通の暮らしとしてお伝えできれば、と思っています。どうぞよろしく願いいたします。（ちだりこ）

四街道市みんなで地域づくりセンターについて

四街道市みんなで地域づくりセンター
(四街道市シティセールス推進課分室)

開館日時：火～金 9:00～20:00 / 土 9:00～17:00

休館日：日・月・祝日・年末年始

所在地：四街道市大日396 四街道市文化センター1階

Tel. : 043-304-7065 Fax. : 043-422-7051

E-mail : info@minnade.org Web : <http://minnade.org/>

みんなでNo.22

編集・発行：四街道市みんなで地域づくりセンター

発行日：令和元年12月1日 発行部数：4,500部

配架場所：市役所、公民館、図書館など センターのHPからもダウンロードできます。

表紙の写真：「視覚障害者総合支援センターちば」の石川さん（左）と川崎所長（右）

ホームページ



フェイスブック

